

授業科目 福祉用具I (移動福祉機器)

【担当教員名】 大鍋寿一	対象学年	2	対象学科	義肢装具自立支援学科
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【<概要>又は<一般目標：G I O>】
 障害者や高齢者が移動手段、または歩行の補助として使用している移動福祉機器について理解を深めるために、移動福祉機器の種類や機能、構造、工学的な基礎について学ぶ。また利用者が安全かつ有効に移動福祉機器を使用するために、利用者の身体や環境に適した移動福祉機器の選択や適合技術、使用方法について学ぶ。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 移動福祉機器の種類について説明できる。
2. 移動福祉機器の機能、構造について説明できる。
3. 利用者に適した移動福祉機器を選択できる。
4. 移動福祉機器の使用方法を説明実践できる。
5. 車いすの分解組立ができる。
6. 専門用語を英語で答えることができる。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	移動福祉機器の種類と分類	1, 6	講義と質疑応答、演習
2	移動福祉機器の歴史・対象者	1, 6	講義と質疑応答、演習
3	車いすの構造	2, 5	講義と質疑応答、演習
4	車いすの分解・組立	2, 5	実習 (大鍋・東江・大塚) 準備 (羽豆)
5	車いすの分解・組立	2, 5	実習 (大鍋・東江・大塚) 準備 (羽豆)
6	車いすの分解・組立	2, 5	実習 (大鍋・東江・大塚) 準備 (羽豆)
7	移動福祉機器の工学的基礎	3, 4	講義と質疑応答、演習
8	移動福祉機器 (車いす) の測定	3, 4	講義と質疑応答、演習 (大鍋, 羽豆)
9	駆動ユニットの適合	2, 3	講義と質疑応答、演習
10	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択 (杖、歩行器)	3, 4	講義と質疑応答、演習 (PT, 大鍋)
11	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択 (車いす、電動車いす)	3, 4	講義と質疑応答、演習 (PT, 大鍋)
12	対象者の評価方法と移動福祉機器の選択 (リフト、昇降機、福祉車両)	3, 4	講義と質疑応答、演習 (PT, 大鍋)
13	体験・演習	2, 4	実習 (大鍋・東江・大塚・羽豆)
14	まとめ		講義と質疑応答、演習
15	達成度確認試験		筆記試験

注：4, 5, 6「車いすの分解・組立」3限－5限の連続時間とする。

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	授業は板書、プリントを使用する。			
参考書	1) 車いすのヒューマンデザイン、田中 理・大鍋寿一監訳、医学書院、2000年、4,500円			
	2) Introduction to Rehabilitation Engineering and Assistive Technology, R. Cooper, H. Ohnabe and Taulor and Francis CRC Press, 2006, \$69.95.			
	3) 福祉技術入門、後藤・足立、Ohmsha (1年次の義肢装具自立支援概論と同じ本)、1998年、4,515円			
	4) からだにやさしい車椅子のすすめ、Bengt Engstrom著 (訳) 高橋正樹ら 三輪書店、1997年、2718円+税			
その他の資料				

【評価方法】 レポート：20%、小テスト：20% 達成度確認試験：40%、学習態度：20%	【履修上の留意点】 問題解決能力だけでなく、課題発見能力に力をいれるので、積極的に質疑応答に参加
---	---

義肢装具自立支援学科 専門